

お化けの金太

特別展「みんなくきすワールド」出展作品／お化けの金太(標本番号H12085、高さ16cm 幅5cm 奥行7cm)

●
日高 真吾

文化資源研究センター

お化けの金太は、熊本県熊本市に伝えられている郷土玩具で、「お化けの金太郎」、「目返り金太」、「舌出し金太郎」ともよばれる首人形である。金太の首の下から出ている紐を引っ張ると、練り物の赤い顔に黒の烏帽子をかぶった笑顔の金太の目玉がくるくる回り、赤い舌をちよろちよろだす仕掛けになっている。違う表情をだすために、金太の目玉は二種類が描かれている



作った玩具が起源となる。江戸時代にこれらの玩具は、社寺の縁日や門前市などで売られ、参詣者らの土産物として全国に広まり、玩具の主流となっていた。明治時代になると、西洋諸国との交流が進み、ブリキやセルロイドで作られた西洋の玩具が国内に大量に輸入された。そして、これらの玩具は、たちまち全国を席卷し、それまで不動の人気を誇っていた郷土玩具を押し

わけだが、目玉の間隔が広いため、紐をきちんと引っ張らないと表紙のような白目になり、まさに「お化け」みたいになる。このようなおどろおどろしさも、この玩具のもっているおもしろさだ。

「お化けの金太」もそうだが、郷土玩具は日本各地の風土や伝承を題材として作られたものや、親が仕事の合間に木や土、紙などの身近な材料を使って、子どものために

けていったのである。

現在、郷土玩具は国内外の旅行者のお土産品として人気を博している。これは、郷土玩具が日本の伝統的な玩具であり、その素朴なたたずまいに魅了される人が多いからであろう。しかしながら、他の伝統技術と同様に、製作者の後継者不足という問題を抱えているものも多く、若手の後継者の育成が望まれているのである。